

# Issues Regarding Commercial Sperm Banks

from the Ethical, Gender and Social Perspectives

## 商業的精精子バンクに関する問題

### —倫理・ジェンダー・社会的側面から

AID (提供精子による人工授精) は、日本でもすでに70年以上実施されてきているが、近年精子ドナーの不足が大きな問題となっている。そして、提供精子を求めて渡航したり、インターネットを介して精子ドナーを見つけ、子どもを持つとするカップルや女性が日本でも増加傾向にある。こうした中、海外の商業ベースでの精子バンクが日本に輸出してきており、これがさまざまな議論を呼んでいる。

デンマークには、世界有数の商業ベースでの精子バンクが複数存在し、これらは世界各国の多くの不妊カップルや同性カップル、シングル女性に利用されてきた。本セミナーでは、このデンマークの精子バンクについて長年研究してきたスティン・エイドリアン氏を招き、デンマークの不妊クリニックでのフィールドワークを通して、クリニックのスタッフや生殖医療を求めて訪れた人々に実施したインタビュー調査や精子バンクの調査研究をもとに、精子バンクをとりまく課題について倫理、ジェンダー、社会的側面から報告していただく。

講師



スティン・W・エイドリアン

Stine Willum Adrian (オールボー大学准教授)

「提供精子のしたたかな実践—倫理の国境」

Subversive practices of donor sperm – Ethics on the border

司会

仙波由加里 Yukari Semba

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任講師)

言語：英語(日本語逐次通訳付き)通訳者：松村直樹(Colts Works)

開催日時：2021年7月2日(金)17:00~18:30

オンライン開催  
(ZOOM Webinar)

事前申込・登録制：QRコードか、以下のURL  
(参加費無料) 当研究所のHPからお申し込みください  
<https://www2.igs.ocu.ac.jp/seminar/2021/07/02/>

お問合せ：ジェンダー研究所 igsoffice@cc.ocu.ac.jp

